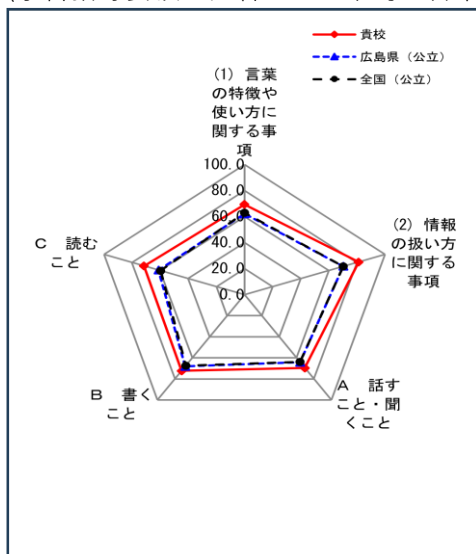


国 語 (解答数 1 2 3 名)

〈正答率〉

	平均正答率	平均正答数
七尾中	71%	10.7/ 15
広島県	64%	9.6/ 15
全国	63.9%	9.6/ 15

〈学習指導要領の内容ごとの平均正答率〉



重点課題と原因

- 言葉の特徴や使い方に関する問題の無解答率が他の設問と比較して高い。(4二8.1%)
- 文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する問題の正答率が、他の設問と比較して低い。(3一43.1%)
- 二つの例文を比べながら、擬態語が表している具体的な様子と効果を書く問題について、無解答が多い。(4四5.7%)

課題に対する指導方法等の改善

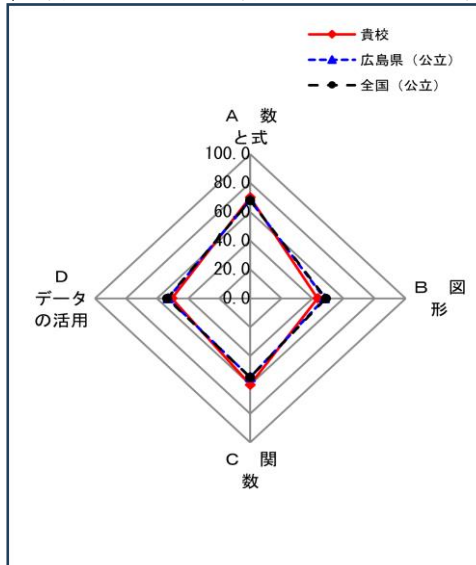
- 言葉の特徴や使い方について、「ら抜き言葉」等は意志・勧誘「～よう／～ろう」の意味を確認し、文法的に理解させ、互いに校正し合う活動を促す。
- 漢字については、新出漢字の意味の確認や、部首と意味の結びつきの理解、同訓異字を用いた例文作成を通して文脈での使い分けを指導する。
- 擬態語の効果については、例文の対比で表現効果を実感させ、「本文の言葉(根拠)の引用」を必須とした書き方の型を指導する。

数 学 (解答数 1 2 3 名)

〈正答率〉

	平均正答率	平均正答数
七尾中	57%	9.0/ 16
広島県	57%	9.0/ 16
全国	57.0%	9.0/ 16

〈学習指導要領の内容ごとの平均正答率〉



重点課題と原因

- 無答率が高かった問題
7(2):28.5%(県33.6%)
8(2):16.3%(県17.5%)
- 正答率が低かった問題
3:39.8%(県47.0%)
8(2):35.0%(県45.2%)
9(1):26.0%(県45.5%)
- 「書こうとはしているが、数学的根拠(式や数値)を不足なく記述する力」に課題がある。

課題に対する指導方法等の改善

- 書こうとする意欲が高いという強みを生かし、数値や式の根拠と結論を区別して書けるような課題を取り入れる。
- 授業の中で、「最頻値」や「変化の割合」などの数学的用語を使って、生徒どうしが説明し合う場を設定する。
- 作図や証明問題では、結論から「何が言えれば解決するか」と手順を逆算して考える対話を取り入れ、論理構成力を養う。

英 語（3技能）（解答数119名）

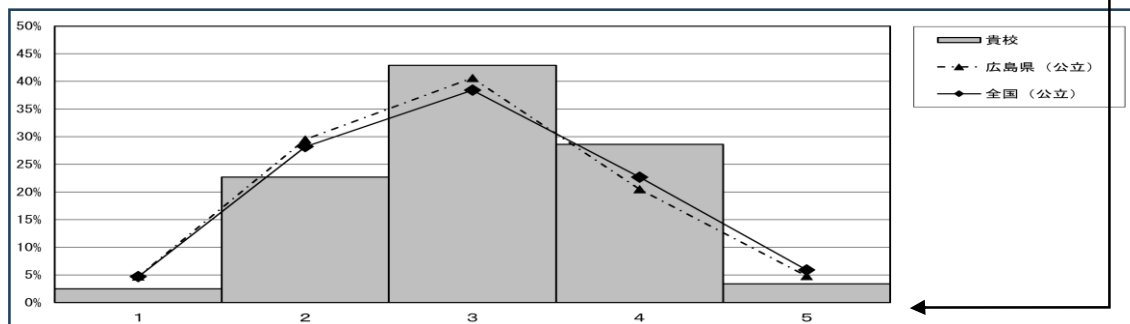
〈IRTスコアと正答数〉

IRTスコア…500を基準とする

	平均IRTスコア	平均正答数
七尾中	508	3.8 / 7
広島県	492	3.6 / 7
全国	499	3.7 / 7

〈IRTバンド分布グラフ〉

IRTバンド	1	⇒	IRTスコア	～350
	2	⇒	IRTスコア	350 ～450
	3	⇒	IRTスコア	450 ～550
	4	⇒	IRTスコア	550 ～650
	5	⇒	IRTスコア	650 ～



重点課題と原因

「書くこと」において、日常的な思い出を振り返って体験と感想をまとめる設問の正答率が低い。（本校46.2%/県51.5%）

状況に合わせて最適解を絞り込むという論理的判断力・情報整理力に課題があることや、文脈を通じた登場人物の心情の変化を俯瞰して捉える読解力が十分に身に付いていないことが原因であると考えられる。

課題に対する指導方法等の改善

複数の条件とテキスト情報を照合し、必要な情報を探す活動を仕組む。

また、主題や重要語句に着目し、筆者の最も伝えたいことについて要約できるよう手立てを工夫する。

生活・学習に関する調査（回答数117名）

質問A 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

選択肢	1日に複数の授業で活用	1日に1回くらいの授業で活用	週3回以上	週1回以上	(%)
七尾中	78.2	13.4	7.6	0.8	
広島県	25.9	28.3	24.7	15.0	
全国	29.3	25.8	23.1	14.7	

質問B PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思うか。

選択肢	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
七尾中	52.9	27.7	13.4	3.4
広島県	33.8	36.7	20.2	5.2
全国	32.0	37.4	20.9	5.7

質問C 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるか。

選択肢	分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる	分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができない
七尾中	44.5	55.5
広島県	31.7	68.3
全国	29.3	70.7

選択肢は上記に同じ

実態分析と今後の取り組み

質問A・Bより、生徒が高い割合でタブレット端末などを使いこなしている実態が読み取れる。タブレット端末を活用して学習内容を整理することで自らの理解度を確認して次の学習へ繋げる姿勢につながっていると考えられる。今後も引き続きデジタル活用基盤を各教科の個々の学力向上につなげることが必要である。